

（議長 寺島渉）

それでは休憩前に引き続き会議を再開いたします。

一般質問を続けます。

発言順位 9 番、議席番号 8 番、荒川詔夫議員を指名いたします。荒川詔夫議員。

荒川議員より、演壇における資料等の提示許可願がありました。

議長はこれを許可しましたので、ご報告いたします。

（8 番 荒川詔夫）

議席ナンバー8 番、荒川詔夫です。通告に基づきまして質問をいたします。

今期における最後の質問になりますが、再質問の項目が多々あります。再質問に至った経緯は、4 年間の総括への集大成を含めまして、今までの質問と答弁がかみ合わない部分等により、具体策がお聞きできなかったり、また未検討結果事項等がありますので、再質問をするに至りました。

町長には 4 年間の実績を踏まえ、10 月の町長選に再出馬されますので、町の将来展望を含めた意図する町づくりの考えが明白と思われまます。従いまして、私の質問の趣旨をご賢察いただき、より具体的な方針等をお聞かせいただきたいと思います。

まず 1 点は、三水地区上水道水源の今後の具体策と財源の考え方について再度お聞きします。町長は就任の 4 年間で保育園、小学校の統合等々の問題をはじめ、各諸事業を取り組まれてきました。また、ソフト事業面では、住民がこの町に住んで良かったと、そういう思い得る町づくりのために地方創生事業等々の施策を展開されてきました。厳しい局面にも関わらず行財政の健全化に向け、具体的には起債の大幅返還と基金の充実を展開され、健全財政構築に向けて取り組まれてきました。今後も難しいかじ取りの中でさらなるご期待を申し上げる次第でございます。

前段はさておきまして、これからお聞きします三水地区の上水道について、9 月の定例会の初日の町長のご挨拶の中で、今後の町としての課題解決すべき事業の一つとして、三水水道の水源確保等々の旨が述べられました。私はこれをお聞きしまして、改めて町長の三水上水道の水源問題の現状をご認識いただき、何としましても住民要望に応えたいという本気度と責務を実行しようとする姿勢には不変であると思った次第であります。従いまして、今般の質問についてももう少し細かく具体的に質問をしたいと思えますけれども、冒頭のご挨拶の中で町長の姿勢等よく分かりましたもので、そこら辺を割愛しまして、次の 2 点についてご質問をいたします。

まず第 1 点として、三水上水道の水源問題についてであります。水質を向上させ、安全でおいしい水の供給に向け、これは町の 2 次総合計画の中に明記されております。従いまして、これらを求めるために現時点での情勢を踏まえての対策と、今後本格的に取り組みが行われるそういう対応策、これは前回の答弁の中に、例えば高度浄水器の設置等、あるいは隣接の信濃町との給水だとか、あるいは土橋付近にさらなる井戸を掘るとか、いろいろご検討されているようです。従いまして、それらの施策への見通しと、当然今度裏付けとして、どのくらい費用掛かるか。そして、その費用に対するやはり実行するには財源確保、これが一番の求められるものがございます。そこら辺の関係について、これからお考え等を伺います。お願いいたします。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

お答えを申し上げます。端的に申し上げたいと思えますが、議員ご指摘のいわゆる安定したおいしい水の供給に対する方法は見つかったのかとこういうことですが、現況としてはまだ見つかっておらず、検討中、研究中でございます。

議員が今おっしゃったとおり、現状のいわゆる鳥居川を中心にした水源として浄水場を高度化させていくようなかたちを採るのか、土橋で掘るのか、土橋から信濃町の原水を買うのか、またはもう信濃町から飲めるようになった浄水を買うのか等々を研究しているところでございますけれども、これは信濃町の町長にも正式に協議を申し込んでございます。信濃町関連につきましては、従って、どの方法を採るかによって事業費というものは大変違いが出てきますので、それは一概に今 10 億掛かります、15 億掛かりますというふうな具体的な数値は申し上げることはできません。

ただ、その諸々においても財源の見通しはどう立てているのかと。こういうことについては、少なく

とも公営企業会計は、本来はそれに見合う収入とそれに見合う支出によってバランスを取っていくのが当然のことだご理解をいただきたいと思いますが、今現在、皆さんに買っていただいている水道水の単価は 199 円です。1 立方当たりですけれど約 200 円だというふうに思ってもらえば、それを今度は水を作る費用、給水の原価というものになると 231 円、だから 1 トン当たり 31 円ずつ赤字が積み重なっているという現況でございます。であれば水道料を値上げすればいいのではないかという話が当然出てきますけれど、ここを工面するのが理事者の仕事であり、町の行政が今後どういう方向でやっていくのか。これが極めて重要なポイントだというふうに思っております。

場合によれば、私よく申し上げているわけですが、電車なども下の線路、鉄路は行政がやって、上の貨車、電車自体は民間の経営をしているところで、または公営企業なり私鉄企業なり、そういうところで運営をして収支を取っていくというようなことも、この上水道についてもいろいろな面を考えてあげないと、100 メートル水道管を延長して、3 軒か 4 軒しか給水できないところと、100 メーター延長して 150 軒も水道を給水できるようなエリアで、同じような単価で同じような運営をしていくことは当然無理な話なので、一番大事なインフラである水道の供給というものは、安定して、しかもなるべく住民の負担にならない範囲内での供給というのが、私は行政の責務というふうに申し上げてきております。

そんな方向で今、28 年度に作った経営戦略を基にして、水道を将来どうするかたちにしていけばいいのか、委員会を立ち上げ、盛んに検討してもらっているところでございます。そんなに遠くない時代に水道ビジョン、長期計画等について議会にもお示しをするという時があるかと思っております。以上です。

（議長 寺島渉）
荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

それでは、今の町長の答弁に関連する質問をただいまから申し上げまして、もう一度再確認をしたいと、こんなプロセスで質問をさせていただきます。

2 点目はご承知のとおり、牟礼、三水地区の人口を含めて、あるいはこれから前向きなということで、人口もできる限り増加に向けた取り組み、そしてさらにその上に企業誘致と、いろいろ諸情勢等もございしますが、それらを含めまして今後の両地区の浄水場の施設、あるいは聞くところによりますと給水管も老朽化していると。そこら辺の施設等の改修が今後大きくクローズアップされることが想定されます。

そこで、ただいま申し上げましたそれぞれの老朽化等に対応し得る、今後の事業計画と所要見込額、あるいは先ほど申しましたように併せて財政計画について、再度、町民サイドに立ちまして質問をいたしましたので、その点をお聞かせいただきたいと思っております。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

私、先ほど答弁させていただいたとおりでありまして、牟礼地区、三水地区の水道、二つというようなことではございますけれど、こちらの水道についてはこれから費用が掛かるから少し値段が高いです、こちらの水道はランニングコストが収まってきているから安いです、こんな水道料金を設定するようなとぼけたことはあってはならないので、どちらの水道についてももちろん一本化した企業会計の中で対応していこうということは当然の話で、まずそれは是非ご理解をいただきたいわけです。

浄水場は、例えば三水地区は考えなければならぬけれど、当面牟礼地区の浄水場は良くても、今のお話のとおり導水管等々の老朽化は何億という試算が出てきております。その辺も含めて今、今後の水道料金のあり方と町がそこにどう関わっていくかということは、いかに一般財源をどう水道会計の中に、町は投入していくのかと。それに尽きるとは思いますけれど、そのやり方はいろいろあるわけですが、そのために貯蓄をしてきたというつもりもございまして、その辺の少し数字的な意味については森課長から申し上げます。

（議長 寺島渉）
森建設水道課長。

（建設水道課長 森佳也）

それでは、施設の関係、今、町長が申されたとおり、三水浄水場につきましては昭和 49 年に建てられたということで 43 年が経過しております。耐用年数がおよそ 50 年という中では、そろそろ処理場の再建築なり、改修が考えられます。

また、管路施設につきましては、導水管、送水管、配水管等総延長が飯綱町全体で 331.9 キロあります。そのうち 40 年以上の経過した管が 23.6 キロございます。管種によったり、管径によったり、単価がはっきりしません、平均 4 万円で計算してみますと、老朽管の布設替えだけで 9 億 4,400 万円。これを 10 年で布設替えした場合に毎年 9,400 万から 1 億円のお金が必要になってくるということです。

ただ、財政見通しといたしましては、1 億円毎年くださいという見通しも立っておりませんので、その中でも実際に破裂した管とか、そういうところの箇所で購入して、本当は全部交換するのがいいんですが、できるだけ耐用年数過ぎても使える管は利用しながらいきたいと考えております。

また、今年度、水道事業の将来像と現実方策ということで、水道ビジョンの長期計画の策定を行っております。この策定を見た中で、また平準化に向け、毎年毎年ある程度の平準化したお金を一般会計からいただくのか、また料金の値上げ等を検討しながら、今後考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

（議長 寺島渉）

荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

それでは、総体的な今後の町全体の浄水場の考え方について、おおよそ理解しました。それで最後に特に三水の上水道水源問題について、町の第 1 次基本計画では計上されましたけれども、残念ながら 10 年間に目的が達成されなかったと。それはいろいろ諸事情もあるので仕方がないかなと思うわけですが、冒頭の町長の答弁の中でできる限り早く検討する中で、実施をしてまいりたいというようなニュアンスのお答えいただきましたけれども、まだ不確定の中で、いつ頃だということは答えられないと思いますけれども、ある程度目安、例えば 2 次総合計画中には実施したいとか、そこら辺の感触についてお聞かせいただきたいと思います。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

水源をどこに求めるかというのにはかなり左右はされるわけですが、決して鳥居川の水の品質が悪くてまずいと言っているわけではありませんが、現実の問題としては不純物がどこかで流れたりということで、時々浄水場で処理に大変時間が掛かったり、苦労している現実というのは今でもあるわけです。従って、そういう心配の無いような水源を求めたいということで、実際のところ土橋等々についてはもう 3 年も掛けて、試掘したり、洗浄したりしてきているわけですが、何もしないできているわけではないのでご理解をいただきたいわけですが、もう 1 点、森課長の方から申し上げましたとおり、本体である浄水場が 43 年という期間を経過しているということをお考えますと、50 年の耐用年数ということになれば、引き算をしていただいで暗に想像していただければと思っています。

（議長 寺島渉）

荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

ただいまの町長の答弁を私なりに理解しましたもので、以上を持ちまして時間の関係もございまして、次の質問に移らせていただきます。

2 番目の質問はがらりと変わりました、婚活に向けての実情とその後の支援策の進捗状況について伺います。まず、端的にお聞きしたいことは、町では現在町内に居住している未婚独身者、この年齢は 18

歳から 50 歳未満、この人数の把握状況についてお聞かせいただけますか。

（議長 寺島渉）
高橋保健福祉課長。

（保健福祉課長 高橋明彦）

お答え申し上げます。現在、管理しています住民基本台帳の基本情報につきましては、氏名、住所、性別、生年月日等ございまして、実際、ご質問の未婚独身者という関連の既婚、未婚についての記載する項目がございませんので現状把握できてないという状況でございます。

（議長 寺島渉）
荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

それでは、そこは私も一步引き下がりにまして、次の視点で質問をさせていただきます。それでは、飯綱町の結婚相談所では、ただいま申した男女別の未婚独身者をどのように把握されて、実際に登録名簿に登載されている人数の状況はどうか、ここら辺をお聞かせいただけますか。

（議長 寺島渉）
高橋保健福祉課長。

（保健福祉課長 高橋明彦）

現在、飯綱町の結婚相談所に登録されている男女数でございますが、男性 31 名、女性 14 名、合計 45 名ということでございます。以上です。

（議長 寺島渉）
荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

今、結婚相談所では計 45 名ということで名簿を持っていながら、婚活に向けた相談等取り組まれているということでございますけれども、それで結婚相談所では、どのように未婚である理由、そういうところについて、例えば適当な相手とまだ巡り会わないとか、あるいは異性とうまく付き合えない等々の理由状況について、もし差し支えなかったらそこら辺のいわゆる把握している状況があればお聞かせいただけますか。

（議長 寺島渉）
高橋保健福祉課長。

（保健福祉課長 高橋明彦）

お答え申し上げます。平成 27 年度飯綱町人口ビジョンの中で結婚に関するアンケート調査をしております。結婚する際に障害になるということでございますけれども、男性では職業や仕事上の問題、あと結婚資金の問題。女性では逆に結婚資金よりも職業や仕事上の問題を挙げているというような結果が出てございます。

現在、独身でいる理由、今議員さんが申しましたとおり、適当な相手に巡り会わないからを挙げる方が男女とも突出しておりまして、半数以上がそのような回答でございます。次に回答が多いのは、男性では独身の自由さや気軽さを失いたくないから、異性とうまく付き合えないから、結婚資金が足りないからというようなことです。女性は、今は仕事に打ち込みたいからという方が多かったというような状況でございます。以上です。

（議長 寺島渉）
荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

それでは、結婚が今できてない、そこら辺の理由について明確に把握されておるということでございますので、是非、そこをさらに深掘りしながら、今後の対応をいただきたいとこんなことを申し上げます。

次、三つ目として、例えば町の結婚相談所について、まず結婚相談所の所在地だとか、あるいはそこに専任の相談員が常駐しているとか、いろいろそういう結婚相談所の所在地含めて、町民各位に私はあまり知れ渡っていないのが今日の情勢ではないかと思えます。このため結婚相談所の活動内容等を含めて、そこら辺の町民の認識度、行政としてどのように捉えているか、そしてまた逆に今度は情報等について、違った視点では、やはり良い情報等を積極的に提供しながらPRをしていく必要がある。そこら辺の手法と、さらに直近における結婚相談所の成婚の実態と問題点についてお聞かせいただけますか。

（議長 寺島渉）

高橋保健福祉課長。

（保健福祉課長 高橋明彦）

まず、結婚相談所に関する情報の提供が少ないということであるかと思えますけれども、現在、社協の広報紙と社協のホームページに結婚相談所のバナーを設置してPRしているというのが現状でございます。確かにその点でいけば、まだまだPR不足であるというふうに感じてございますので、今後また、結婚相談所に関するチラシを全戸に配布するなり、PR方法については検討していきたいと考えております。

平成 28 年度につきましては、成婚された方は一組でございます。平成 29 年度現在、今のところ一組が成婚されてございます。交際継続中が 3 組ということでございます。問題点でございますけれども、比較的カップルは成立しているのですが、その後の成婚に繋がっていないというのが状況でございます。その原因としましては、男性につきましてはルックス、スタイル、会話力、金銭力とか、そういうところが良い方は、比較的良いのではないかとということで、実際成婚されていない方につきましては 45 才以上の男性が多く、なかなか女性に慣れる場が少ないという方がおりますので、できるだけそういう方に対しては、女性に慣れる場を積極的に推奨するというので、セミナー等も開催しています。男子力アップのためにスタイリストじゃないですけども、服装ですとか、髪型とか、会話力、そういうようなセミナーも開催しております。ですので、その辺でできるだけ男性につきましては、男子力のアップというものを心掛けております。

その他に結婚相談所の機能としまして、前にも申しましたけれども、結婚相談所という拠点が出来ました。そこはできるだけフリーにしまして、未婚の皆さんのたまり場として、コミュニティーの場として誰もが気軽に来るといふことによりまして、その中で男女がうまく付き合っているのではないかとということで、新たな取り組みができれば良いのではないかと対策をしているところでございます。

（議長 寺島渉）

荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

是非、積極的に問題点等を克服していただいて、少しでも成婚に結び付くような、そんな取り組みをご期待申し上げます。

次に 4 番目といたしまして、町の結婚相談所への行政からの支援の対策として、町でのイベント計画の検討状況、併せまして先般質問をさせていただきました庁内に結婚相談の支援をするような、そんな各課横断的な体制整備、これについての検討状況についてお聞かせいただけますか。

（議長 寺島渉）

高橋保健福祉課長。

（保健福祉課長 高橋明彦）

町といたしましては、社会福祉協議会に委託しておりまして、その中で所長さんがおります。専任相

談員さんもおります。協力員さんもおりますということで、町は一部下支えというなかたちで参加させていただいております。

特に今年度につきましては、今年の夏に開催されました天狗 R o c k フェスティバルがありましたけれども、それに合わせてフェス婚というのも実施したり、新たなイベントを開催してございます。その中でもリゾートスキー場でやったわけですけれども、カップル成立によりまして、例えばリゾートスキー場のリフト券をプレゼントするとか、ペンションの宿泊券をするとか、いろいろな多種多様な考えを持っております。ですので、その辺につきましては、結婚相談所の中で新しいイベントを今検討しているところでございます。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

この関係について、正直言って横断的なプロジェクトを組んだ経験もないし、大きな意味でのこれを話題にして朝の課長会等々で議論し合ったという経過も今のところはございません。

（議長 寺島渉）
荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

なぜ、私はこういう質問をするかというその裏付けとして、ただいま保健福祉課長が言われたように、結婚相談所は町の社協に委託をしているということで、やはり私はそういう立場にあるからこそ、いろいろな県下の市町村だとか、あるいは広い視野で情報提供等をする中、より一層、飯綱町結婚相談所へ下支えをしていただきたいと。こんなことが今求められているという思いで、先般の定例会で質問をしたわけですけれども、その際、若干前向きのようなご答弁をいただきましたもので、今回改めて質問をさせていただいたわけでございます。是非、丸投げとは申しませんが、極力、支援体制をしながら、この飯綱町のやはり現状というものをできる限り解消していただきたい。これからまた申し上げますけれども、そんな視点に立ってもう少しご検討をいただきたいということで、最後にもう時間もありませんので質問をいたします。

未婚独身者をいかに婚活に結び付けるか。これは町として人口減にストップを掛けたり、あるいは地域の活性化に繋がる私が一番の足元の施策、そしてまた課題として真っ先に取り組まなければならない課題ではないかと常日頃思っております。そこで、先ほど直近の成婚実態についてお聞きしました。非常にまだまだ厳しいということで、改めまして町の見解と婚活に向けての決意というものを再度お聞かせいただきたいと思えます。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

農業後継者も含めて町全体が存続していくためには、それは結婚していただいて、子どもさんをもうけていただいてというのが、これは誰が考えても一番ベターなことだと思います。行政もその意味では、ちょっとソフト事業であまり慣れていない仕事の一つだというふうには思いますけれども、精一杯支援はしていきたいと思っておりますが、いわゆる下準備の支援はするわけですが、一定以上はやはり結婚する、しないは、日本国憲法で認められているとおりでございますので、そこら辺は是非ご理解いただきたいと思えます。結婚相談所という看板下がっているところへ行くよりも、私がもし相談に行きたいとすれば、週末カフェとか、何だか知らないけれど、いろいろな人たちが来て、いろいろな話をして、夕方からは一杯いただけるみたいな、そういうようなたまり場みたいなものも地域の活性化というようなことに合わせる中で考えていきたいなと思っております。

（議長 寺島渉）
荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

それでは、そこら辺の対応策を含めながら、もう既に検討のうえ実施されているということでございますけれども、現在は婚活に向けた人集めとして、やはり婚活を前面に出すより、例えば農業体験だとか、あるいはセミナー開催等の手法が非常に功を奏しているようでございます。ここら辺を一つ参考にさせていただきながら、より一層、結婚相談所の機能が果たされ、成婚成果がアップするように、そしてまたそのことによって、関係者から一層信頼されると、そんなふうには是非取り組まれることを申し上げまして、婚活については以上を持ちまして終わりとします。

次に 3 番目の深沢商店街活性化に向けての現状と今後の支援策の考えについて伺います。深沢地域も人口減少、高齢化及び後継者不足等の背景により、既に昨日も町長が言われましたように限界集落の一つの地域になっておるといのが現状かと思えます。

そこでまず 1 問としてお尋ねすることは、今般の国道 18 号線の改良工事により、店舗やあるいは自宅が移転を余儀なくされている人が存在しております。それで、これらの人たちへの対策として、深沢地区のこれ以上元気が喪失されるようなことのないように、是非、現在地あるいは最低でも飯綱町で営業できるような、そんなことが周りの町民も非常に期待やら不安を持っております。そこで改良工事に伴って、移転等そういう対象者を対象にして、例えば代替地のあっせん等々の支援の現状と、今後の支援策のあり方についてお考えをお聞かせください。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

議員は非常に質問数が多いので、私も端的になるべく答えさせていただきますけれども、町としては、大切な店、商業をやっておられる方が、今回の歩道等の工事で町外に出ていかなければ適地が無かったというようなことは、非常に切ないことだという認識は同じでございます。従いまして、まだ具体的にどうこうして欲しいというような要請はございませんけれども、しかし、一定の適地と思われるような場所については、商工会を通して紹介をしていくというような、そういう諸々の努力はして、是非この町に引き続き留まっていたくような方法を取りたいと思っております。

（議長 寺島渉）

荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

分かりました。よろしくお取り計らいください。次、旧三水公民館の跡地利活用に当たっての建物の規模だとか施設の利活用の考え方については、昨日の小林議員の質問で意図するところは分かりました。

今後、対応策として組とも相談することですが、建物用途等の構想が深沢商店街及び組の活性化に関わる施設と私は理解しましたが、そういう理解でよろしいかどうか。また、組の意見、考えを今後尊重していただけるかどうか、その点伺います。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

細かなことについては担当課長から申し上げますけれども、もちろん深沢組、商業をやっている深沢商店街、両者にとって今度出来る施設が地域の活性化に繋がるものであるようにしたいというのは全くの同感でございますが、もう一つは便利の良い場所ですので、人が常に集うような、昨日も申し上げましたけれども、子どもからお年寄りまで 1 日誰かが居て、賑やかな場所になっているような、そういう場所になればと希望しております。

（議長 寺島渉）

荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

それでは次に移ります。長電バス牟礼営業所については、町は当事者ではないので、どうこういうことはできないと言われますけれども、現在地の営業を存続されるかどうかについての情勢を含めて、町としてはどんなスタンスが望ましいか、そこら辺のお考えをお尋ねします。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

少なくとも現時点で長野電鉄から移転をしたいというような要望は聞いておりません。従って、現状のままであれを営業所として私どもは位置付けて、それに伴う周りの整備をしていきたいと思っています。

（議長 寺島渉）

荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

分かりました。次に深沢商店街へ他の施設だとか、あるいは新規出店、あるいは空き店舗を利活用したいという、そんなような新たな動きがあるかどうか含めまして、さらにそこら辺に向けた誘致策等の考えについてお聞かせいただけますか。

（議長 寺島渉）

土屋産業観光課長。

（産業観光課長 土屋龍彦）

それではお答えいたします。新たな出店の情報等というものは無いわけですが、この深沢商店街につきましても他の商店街と同様に空き店舗活用等含め、商店街が振興する政策について地元の商店街の皆さんの意見を聞きながら研究してまいりたいと考えております。

（議長 寺島渉）

荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

それでもそんな方向で、是非、太いパイプで接触いただきながら調整を取っていただきたいと思えます。

次に町の第 2 次総合計画では、商店街の活性化に向けたイベントや産業まつりの開催をするというふうに明記されております。これに関して深沢商店街への具体策の考えについてお伺いします。

（議長 寺島渉）

土屋産業観光課長。

（産業観光課長 土屋龍彦）

それではお答えいたします。現在、町では産業まつりということで、りんごの里まつりを実施しております。本年度も飯綱町民会館で開催をしておりますが、町民の中から商店街が活性化できるよう商店街付近でこの産業まつりを開催したらどうかと、そういった声も寄せられております。今後、りんごの里まつりをどのようなかたちで開催していくか研究してまいります。

（議長 寺島渉）

荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

それでは、そこら辺を計画に明記されておりますので、是非、実現に向けての取り組みをお願い申し上げます。

以上、お聞きしましたけれども、深沢地区にはご承知のとおり大日如来の石仏、これは非常に歴史的な存在物だそうですねけれども、現存しております。その石仏について、住民の一部の方が自主的に管理をされておるわけですねけれども、これらの石仏の周辺の整備をされながら、今度は J A ながのの東側の駐車場の敷地、そこら辺も深沢商店街の活性化に向けて、一層ご検討いただくことを申し上げまして、以上を持ちまして 3 番目の質問を終わりとします。

次に 4 番目として、季節的農業支援強化策として大学生、あるいはりんご学校生、あるいは県人会、そういうものの活用について質問をいたします。

ご承知のとおり、農業の維持存続に向けた課題として、農業者の高齢化、後継者不足等の背景により生産基盤が年々脆弱化している実情にあります。そこで、現行は二つの援農組織により農家のニーズに沿いながら今対応をいただいております。しかし、援農支援組織の充実の強化といえども支援体制にも限界があることも事実です。そこでお尋ねしたいことは、例えばりんごの摘果、あるいは葉詰み等、果樹農家の超繁忙時期に今申し上げました大学生等の連続した労力提供があれば、非常に農家の軽減負担と、一方果実の品質向上、こういうものにも連動するものと思います。なお、そういう援農者の宿泊先は東高原のペンション等、そういうものを活用はしてはいかがでしょうか。これは行政だけでは対応しきれませんので、是非 J A ながのと十分検討の上、そこら辺の方策を講じていただくようお願いいたします。併せて、参考までにりんご学校の参加状況、産業観光課からお願いして資料いただきました。これらを皆さん方、是非ご覧いただきたいと思います。以上でございます。

（議長 寺島渉）

土屋産業観光課長。

（産業観光課長 土屋龍彦）

それでは答弁させていただきます。摘果作業等の時期は、援農の需要が高くなることを町も承知しており、農業振興のための対策の必要性は感じております。それで現状でございますが、今 J A ながのが仲介して武蔵野大学の学生が今年の 8 月に本町で農業体験をしております。1 年生の教育カリキュラムに組み込まれておられて、5 年目となる今年は 60 人が参加をしております。概ね 4 人一組で 1 週間程度農家に入っております。農家の支援というよりは学習の一環で体験授業をしておりますが、農家にとっては非常に有り難い存在だと聞いております。

大学等が授業として農業体験を取り組むのであれば、受け入れ側から時期を指定するという事は困難ではあると思いますが、J A ながのと協議しながら、農家にとっても、学校にとっても、地域にとっても、三方良しになるような学生の受け入れを研究してまいりたいと思っております。

また、過日の町民講座で小田切教授から飯田市のワーキングホリデーによる都市住民との交流についてのお話がありました。町でも農業の支援、農業の体験を趣旨とするワーキングホリデーの制度がありますので、飯田市の優良事例を参考にしながら、摘果作業等の時期にワーキングホリデーの参加者を募集する企画について、農業者の皆さんと一緒に研究をしてまいりたいと思っております。

いずれにしましても、都市住民による農家に入っている農業体験というのは、農家の戦力になるだけではなくて、農業の現場や産地としての飯綱町を知ってもらいながら、飯綱町のファンを獲得していくことに繋がりますので、町は前向きに検討してまいります。以上でございます。

（議長 寺島渉）

荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

以上申し上げましたけれども、援農支援としての大学生等の活用は、農作業体験を通して町の P R にも繋がったり、また農業の魅力と愛着に連動して、農業に夢と希望を与える絶好のチャンスかと思いません。

先ほど言われましたように、私も過日の町民講座で講演された小田切教授の都市、農村共生への社会に向けてを聴講いたしまして、町の関係人口を増やす政策にも繋がり、将来町への定住も期待できる施

策と思います。そこで、先ほど言われましたように飯田市等の優良事例を含めて、是非実現いただきたく申し上げる次第でございます。

次に 5 番目の農地利用権設定等に係る農地の自主管理適正にあたっての検討結果等についてお聞きします。先の 3 月定例会におきまして、水田のけい畔や水の自主管理に適正を欠く農地が常習化されつつある昨今、これを解消する一つ的手段として、農地の利用権設定等にあたり、借受者の自覚と責任の所在を明確にする必要から、事前に書面にてけい畔を含めた農地の善良管理に向けての書面を提出した後、農業委員会の承認を得るような、そんな扱いを求めたわけですがけれども、検討結果と状況によりましては、他の手法でそれ以上に効果が上がるという施策があれば、併せてお聞かせください。

（議長 寺島渉）
土屋産業観光課長。

（産業観光課長 土屋龍彦）

それではお答えいたします。農地の除草を怠ると病害虫の発生や鳥獣の住処になるなど、周辺の農業や住民に多大な迷惑が掛かかります。町としては農業者に農地の適正管理を強くお願いしているところでございます。

過日の議会で議員から農地の利用権設定をする際、農地の適正管理の契約を貸付者と借受者の両者で行なったらどうかという提案につきましては、ご意見として伺うことで留めたいと考えております。農地が今後さらに集積化され、大規模経営がされると中山間地の多い当町では、農地の適正管理についての問題が今後も出てくると考えられます。町は農業委員会と協力して、農家に対して粘り強く、農地の適正管理をお願いしていきたいと考えております。

また、けい畔の草刈りを軽減するために、けい畔緑化、いわゆる特殊な芝でけい畔を覆い、雑草を生えないようにする雑草対策の実証実験を今年度から小玉地区と古町地区で実施をしております。その効果を検証し、町は農業改良普及センター等の協力を得ながら、けい畔管理の省力化について研究をしてみたいと思っております。

議員の質問趣旨というのは非常に良く理解できますので、町は様々な手法で農地の適正管理を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

（議長 寺島渉）
荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

それでは、6 番の人・農地プランの施策の現状と問題点及び今後のあり方について質問します。人・農地プランの現状は、町内を 6 地区に分けまして、それぞれ人・農地プランを策定済みであると。そして、且つ毎年見直しを行っているというような実情にありますけれども、私は名目上、国の制度に則った扱いのみが講じられている、そんなような印象を持っております。

しかし、このことによって収納金のメリットがあるようではありますが、先ほど申しましたように本来の目的から掛け離れた遠い存在の事務事業である旨、常々思っておるわけでございます。その理由といたしまして、地区内の農業者への周知徹底が図られていないため、誰がその地区内の担い手であるかどうかほとんど知られていない実情にあります。昨日も原田議員から質問されたわけでございますけれども、8 月 4 日の農業者と農業委員会との懇談会の経緯を見ても、本当に私は机上の産物であるというふうに感じた次第です。

それで、今後の打開策については、昨日の原田議員の質問について答えられ、基本に立ち返り、地域で徹底した話し合いの実施をするという考えをお聞きしたわけでございます。さらにもう少し深くお聞きしたいわけですが、地域の話し合いは先ほど申しましたように、現行は 6 地区に分けておることとございまして、今後予定されている、いわゆる集落内の話し合いの開催、そのあり方、あるいは話し合いの手法、例えば事前にアンケートを取って、本当に地域の課題、現状、今後の予測される姿、そういうものを明確にして話し合いをされるか、そこら辺の考えについて一点だけお聞きしたいと思っております。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

基本的なことですので私の方からお答えを申し上げますけれども、今回この問題が非常に多く、人・農地プランの問題についてご意見、ご質問いただいておりますけれども、私も答弁をさせていただいたとおり非常に分かりにくい中身だなと。

しかしながら、この 6 地区の農地の人・農地プランが無ければ、諸々のスーパーL 資金などの補助事業が導入できないということもご承知おきをいただきたいと思います。どうしても早急に作らなければならなかった事情があったと推察をしております。しかしながら、この趣旨は深くご理解をいただければと思いますもので、この 6 地区に関わらず、普光寺なら普光寺の東部で、みんなで集まってどうしたもんだと、こういう会議を設定していくようなことを、今担当の土屋課長の方でもいろいろ工夫しているようでございます。

例えば私は平出ですが、平出で集まったら丹霞郷のもも団地については、もう作る人が 5 人ぐらいしかいなくなってしまったと。来年からどうしていくかということ、ここでみんなで話をするかと。そういう集落単位の話し合いというものがこれから求められるし、それを開催していくべきだろうと思っております。

（議長 寺島渉）

荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

この人・農地プラン、非常に現在、飯綱町にとっても課題解決する非常に良いシステムだと思いますので、是非、今後そのようにいかにして知恵を絞りながら汗をかいて、しっかり立ち上げていただくことを申し上げ、最後の質問に入ります。

儲かる農業に向けての主要農産物のブランド化の現状と今後の施策について伺います。まず 1 点として、飯綱町の米と果実は以前からおいしいと技術者や消費者からも評価されております。例えば、地区内のどんな米でも引き取るから欲しいという歴史的な経過もございました。

また、果実も同様な評価を得て、農家自身も自負してきました。しかし、現実の一部の農家の皆さん方を除いて、価格の面からも全体的には差別化が見受けられなく、生産者自身ももがいており、特にこのことによって、特段所得の向上、こういう連動しているというような現実も見受けにくいということが現実の有り様と思います。

そこで、主要農産物ブランド化に対しての思いをお聞かせいただきたいと思います。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

私は特に果物、りんご、ももなどについては、飯綱町の果物は立派にある程度ブランド化されていると思っています。これをどうやってもっと皆さんに知っていただくか、その方法を一生懸命考えなければいけないだろうと思っています。

また、米のおいしさも同様でございます。これからは何とかそれをどうやって国民の皆さんに、消費者の皆さんに PR していくかが、ブランド化を定着させる大きな課題だと思っています。

（議長 寺島渉）

荒川議員。

（8 番 荒川詔夫）

それでは時間も 1 時間過ぎようとしております。主要農産物のブランド化に向けた生産段階での現状と今後の生産体制、こういうことをご質問する予定でございましたけれども、時間ももうまいりましたので、1 点申し上げて、また後日再度伺うということでございます。

私ども議員、視察旅行で研修に訪れた石川県羽咋市の神子原地区の神子原米。それから飯綱町商工会

で開催され視察研修に伺いました山梨県南アルプス市のすもも、貴陽。これが地区あるいは市全体が評価されて、価格面でも他の地区と差別化されている現状であります。

そこで、次回お聞きするわけですけれども、主要農産物の価格面含めて、是非、生産体制に繋がるようなそんな考え方と方策をお聞きするということを申し上げまして、以上を持ちまして私の質問を終わります。

（議長 寺島 渉）

荒川 詔夫 議員、ご苦労様でした。

以上で午前の日程が終了しましたので、これより休憩として再開は午後 1 時とします。